



生かされ、生きるチカラ。

「感謝と謙虚」を忘れず夫とともに。

足利教会 坂上佳予子さん

平成23年、坂上さんの夫は長年勤めた会社を退職。念願の行政書士となったものの、2年目にはほとんど仕事がなく家にいることが多くなり、坂上さんは夫を責めるようになった。そんなとき、いつも親身になってくれる人のアドバイスで、頑なだった夫も職探しに奔走。4か月後、ようやく採用されたが、初出勤の日に不整脈で緊急入院。退院後、一度は採用を取り消された会社に頼みこんで1か月間だけ働くことができた。家族のために一縷の望みをかけて頭を下げ懇願する夫。坂上さんは、その光景を思い浮かべると、涙があふれた。そして、自分の人生にはつらいこと、うれしいことが交錯するが、いつも周りには話を聞いてくれる人がいて、多くの人に支えられている。そう気づいたことで、「これからは感謝と謙虚さを忘れず、夫と一緒に歩いていく」と心に誓った。その後、夫は流通関係の会社に就職。それを機に弁当を作り始めた。今は、その弁当を持って出かける夫の姿を見送るときが何より幸せだという。



あらゆる「いのち」に奉仕する

私たちは、生きていくために必要な衣食住のそれぞれを、随時、手に入れなければなりません。そのことについて、仏教では「八正道」の「正命」として、「正しい生活法によってそれを求めるように」と説かれています。一般社会にあてはめると、「正しい仕事によって生計を立てる」ということになります。ただ、仕事に限らず、家事や子育てはもちろん、人さまのお世話をすることや、あるいはお世話をしていただくことさえも、そのときその人に神仏から与えられた、いわば天命ともいえのお役ですから、それを素直に受けとめて、楽しくつとめることは、「正しい命の使い方」にほかなりません。二切の生きとしいけるものは、幸福であれ、安穩であれ、安楽であれ」と、釈尊は願われました。私たちの手に余る大仕事に思えますが、私たち一人ひとりが、暮らしのなかの小さなひとコマもおろそかにしないで、「正しい命の使い方」につとめればいいのです。すると、それはやがて大きなうねりとなって、釈尊の願われる世界を築く力となります。なぜなら、私たちはみな、物心ともに世界じゅうのあらゆる「いのち」と、網の目のようにつながっているからです。

立正佼成会

www.kosei-kai.or.jp Eメール: info@kosei-kai.or.jp
〒166-8537 東京都杉並区和田2丁目11番1号 TEL.03-5341-1615

創立  周年